令和３年度　秋の公開

美 術 科 学 習 指 導 案

指　導　者　　長野県総合教育センター　専門主事　千原　　厚　先生
共同研究者　　信州大学学術研究院教育学系　助教　大島　賢一　先生
日　　時　　令和３年 11 月５日（金）
授 業 学 級　　１年Ａ組（41 名）
授 業 会 場　　武道場
題　材　名　　「木組み～組んだ形から感じたことを表す～」
授　業　者　　常田　浩二

Ⅰ 本校全体の研究
1　目指す生徒の姿・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　美術１
2　全校研究テーマ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　美術１
3　研究の重点・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　美術１
4　各教科等での育成を目指す資質・能力と各教科等の研究テーマ・　美術２
Ⅱ 美術科の研究
1　美術科の研究テーマ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・美術３
2　教科としての全校研究テーマの受け止め・・・・・・・・・・・・・・美術３
3　研究内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・美術３
Ⅲ 題材の指導計画
1　題材名・学年・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・美術４
2　題材の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・美術４
3　題材の評価規準・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・美術５
4　美術科として、全校研究テーマに迫るための仮説・・・・・・・・・美術５
5　題材に寄せた教材化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・美術５
6　題材展開・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・美術９
Ⅳ 資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・美術 11

信州大学教育学部附属長野中学校　　美術科

研究者　　常田　浩二　　横山　采佳

Ⅰ　本校全体の研究

１　目指す生徒の姿

学びを拓いていく生徒

２　全校研究テーマ

学びの本質に迫る学習の在り方

３　研究の重点

(1)　問題発見・解決の過程において、各教科等の「見方・考え方」を働かせることができるようにする。（重点１）
(2)　学んでいることや学んだことの意味や価値を自覚することができるようにする。（重点２）

昨年度までの成果と課題から、本年度は、目指す生徒の姿を「学びを拓いていく生徒」とし、研究を進めていくこととした。「学びを拓いていく生徒」とは、①「各教科等の資質・能力を身に付けていく生徒」と②「①を踏まえて、身に付けた資質・能力を他に生かしたり、新たに見いだした課題を解決しようとしたりしながら学び続けていく生徒」と、捉えている。

中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説の第１章総説には、「これからの時代を生きる生徒は、予測困難な社会の変化に主体的に関わり、感性を豊かに働かせながら、どのような未来を創っていくのか、どのように社会や人生をよりよいものにしていくのかという目的を自ら考え、自らの可能性を発揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となる力を身に付けられるようにすることが重要である」と示されている。

このような力を育成するためには、中学校において、生徒が各教科等の「見方・考え方」を働かせて、各教科等の資質・能力の育成につなげていくことが求められている。「見方・考え方」そのものは資質・能力に含まれるものではないが、各教科等を学ぶ本質的な意義の中核をなすものであり、各教科等の学習と社会とをつなぐものである。また、本校では、学習の基盤となる資質・能力のうち、「問題発見・解決能力」が、生徒の生涯にわたる学びの基盤となるものと考え、研究の重点１を「問題発見・解決の過程において、各教科等の『見方・考え方』を働かせることができるようにする」と据えた。

各教科等で身に付けた資質・能力を他に生かしたり、新たに見いだした課題を解決しようとしたりしながら学び続けていくことができるようにするためには、学習内容を人生や社会の在り方と結び付けて深く理解するなど、生徒が各教科等の学習の有用性を認識していく必要がある。そこで、研究の重点２を「学んでいることや学んだことの意味や価値を自覚することができるようにする」と据えた。「学んだこと」だけではなく、「学んでいること」を付け加えたのは、単元や題材の学習において、「何のためにこの学習を行っているのか、そこにはどのようなおもしろさや社会とのつながりがあるのか」などを、生徒が自覚することで、学ぶことに興味や関心をもち、粘り強く取り組む中で、自己の学習を振り返って、次につなげるなど、生涯にわたって学び続けることにつながるのではないかと考えたためである。

各教科等の「見方・考え方」を働かせて、資質・能力を身に付けていくことが「各教科等の本質」であるとするならば、各教科等の枠を超えて、自ら「見方・考え方」を働かせて、物事を問い続けたり、追究したりして学び続けていくことを「学びの本質」と捉える。そこで、「学びを拓いていく生徒」を育成するために、全校研究テーマを「学びの本質に迫る学習の在り方」と据え、研究を進めていくこととした。

４ 各教科等での育成を目指す資質・能力と各教科等の研究テーマ

各教科等の資質・能力を育成するため、本年度の各教科等の研究テーマを下記のように決め出した。

各教科等	各教科等で育成を目指す資質・能力	各教科等の研究テーマ
国語	国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力	文章を読んで理解したことなどに基づいて、自分の考えを形成する力を高める学習の在り方
社会	広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎	社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察する力を高める学習の在り方
数学	数学的に考える資質・能力	数学を活用して事象を論理的に考察したり、数量や図形などの性質を見いだし統合的・発展的に考察したりする力を高める学習の在り方
理科	自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力	観察、実験の結果を分析して、解釈する力を高める学習の在り方
音楽	生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力	音楽表現を創意工夫する力を高める学習の在り方
美術	生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力	主題を基に、発想し構想する力を高める学習の在り方
保健体育	心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力	運動が有する特性や魅力に応じて、その楽しさや喜びを味わおうとする力を高める学習の在り方
技術・家庭	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力	(技術分野) 社会や生活課題について多面的に検討し、最適な解決策を考える力を高める学習の在り方 (家庭分野)生活事象を多角的に捉え、よりよい生活を営むために工夫する力を高める学習の在り方
英語	簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力	事実や考え、気持ちなどを伝え合う力を高める学習の在り方
道徳	よりよく生きるための基盤となる道徳性	自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、道徳的心情を育むための学習の在り方
総合	よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力	自ら課題を設定する力を高める学習の在り方
特別活動	様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して身に付ける資質・能力	学校生活をよりよくするための課題を見いだし、解決する力を高める学習の在り方

Ⅱ 美術科の研究

1 美術科の研究テーマ

主題を基に、発想し構想する力を高める学習の在り方

2 教科としての全校研究テーマの受け止め

「身近な『美』～透明描法で描く～」（令和３年４月・１年）では、身近なものから感じ取った美しさを絵で表現する学習を構想した。そこでは、詩や友の考えから美しいと感じるものについて主題を生み出し、混色や重色の特徴を絵のどの部分に生かせるのかを考える展開を位置付けた。

Ｔ生は、はじめ、花などの形や色彩の特徴から美しさを感じていた。教師は、美しさの多様さが表れた詩「うつくしい！」（谷川俊太郎作）を紹介し、目には見えない美しさを感じるものはないか、学校内を見て回る場を設けた。Ｔ生は、Ａ生とともに教室に立ち寄り、床の傷などを見たＡ生の「今まで使われてきた人たちの思いも美しさの一つではないか」という形の特徴から想像した心情の美しさにふれた考えに興味を示した。その後Ｔ生は、さらに校舎内外を見て回り、水が濁っているプールに目を留めた。Ｔ生は、濁った水の色彩から想像を深め、これまでにプールを使ってきた人たちの思いに美しさを感じ取り、主題を、「長い間使われてきたプール」と設定した。その後、Ｔ生は、着色体験を行い、白色から緑色、青色、水色と重色することで、今まで使ってきた人たちの思いを表現することができると考え、作品を描いた（**図１**）。このようなＴ生の姿を、「造形的な見方・考え方」を働かせ、主題を基に、発想し構想する力を高めた姿と捉える。

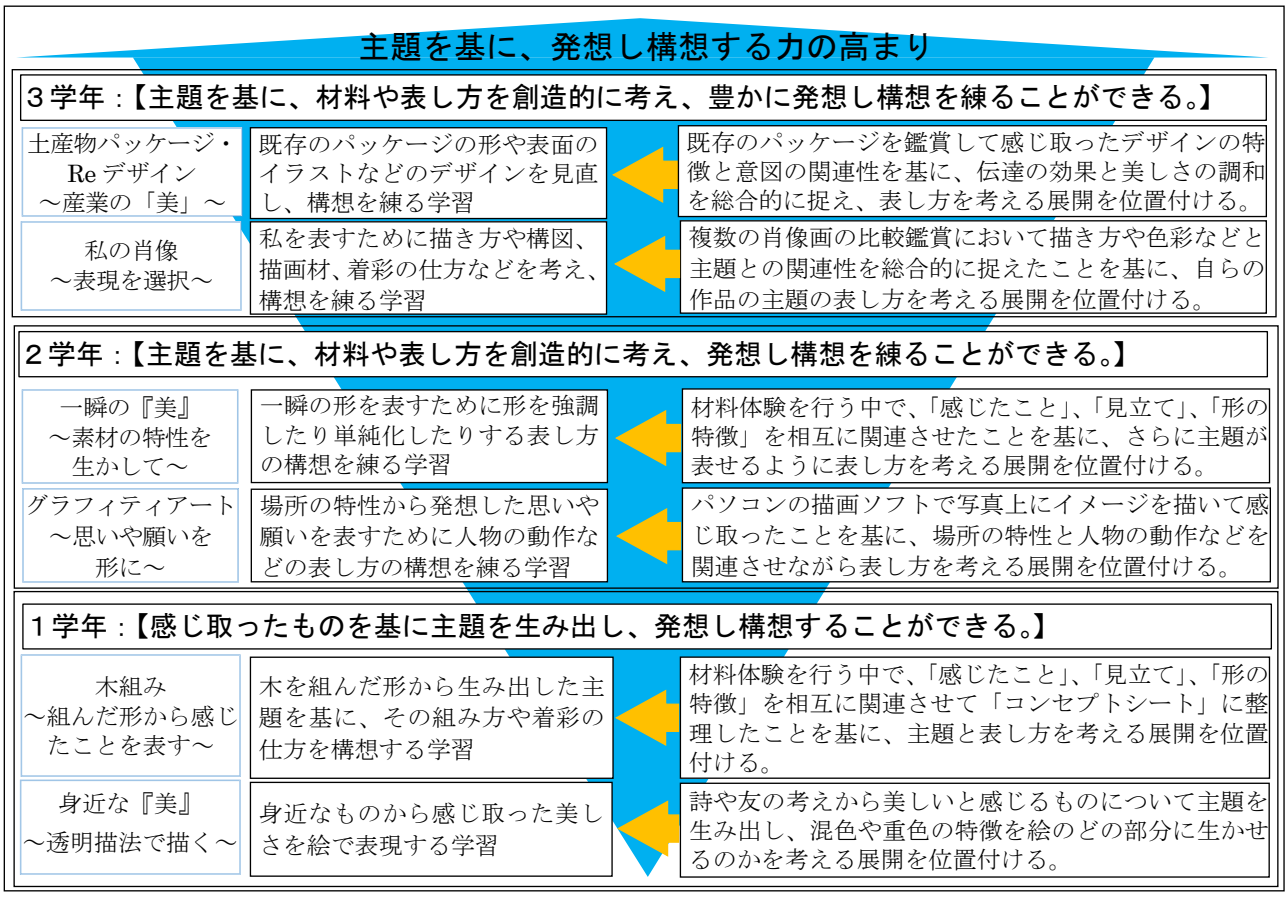
図１　Ｔ生の作品

題材の終末、教師は、身近なものから感じ取った美しさを絵で表現する学習が、これからの学習や生活にどのように生かすことができそうかを考える場を位置付けた。Ｔ生は、「世界には様々な美しいものがあり、その中から自分の描きたいものを主題として設定したことで、それを表現してみたいという思いが強くなった。これからも色の重なりに着目して、身の回りにある美しいものを見付けて、表せるようにしていきたい。」と振り返った。本校美術科では、このようなＴ生の姿を、学んだことの意味や価値を自覚することができた姿と捉える。さらに、Ｓ生は、「描き方を構想する際に、何枚かスケッチを描いたことで、『力強い切り株』が表れる構図を決めることができた。また、同じ切り株を描いたＭさんが『年季が入った樹皮の美しさ』を表現していて、同じものでも人によって感じたことが違っていて興味深かった。これからも、試行錯誤したり友が感じたことも聞いたりして、自分の考えをまとめながら主題を決めて作品をつくっていきたい。」と振り返った。これらのことから、主題とその表し方を生み出すために素材の材料体験を行い、構想する際に主題やその表し方を見返す展開を位置付けることで、主題を基に、発想し構想する力を、さらに高めることができる可能性が見えてきた。このような手だてを位置付けた学習を積み上げていくことで、美術科の研究テーマ、さらには全校研究テーマを具現し、「学びを拓いていく生徒」に迫ることができると考え、本研究を構想する。

3 研究内容

中学校学習指導要領（平成 29 年度告示）解説美術編第１章２（2）改訂の要点における②ア表現領域の改善には、「『ア感じ取ったことや考えたことなどを基にした発想や構想』及び『イ目的や機能などを考えた発想や構想』のすべての事項に『主題を生み出すこと』を位置付け、表現の学習において、生徒が自ら強く表したいことを心の中に思い描き、豊かに発想や構想をすることを重視して改善を図った。」と示されている。そこで本校美術科では、発想し構想する場面における本校生徒の実態と中学校学習指導要領美

術科で育成すべき資質・能力から、美術科の研究テーマを具現化するために至りたい各学年の段階を決め出し、３年間の構想図を作成した（**図２**）。本校美術科では、主題とは、対象や事象に直接関わる体験が、過去の生活体験や学習経験と重なり合うことによって豊かに生み出されるものであると考える。そのため、それぞれの題材の学習において、生徒が主題を自ら設定することができるように、題材の導入時に鑑賞活動や材料体験を行うようにした。さらに、その鑑賞活動や材料体験で感じたことと、形や色彩の特徴などとを相互に関連させていくことで、さらに主題やその表し方を捉え直しながら、豊かに発想や構想をしていくことができると考えた。



※上記の図は、以下のような構成となっている。

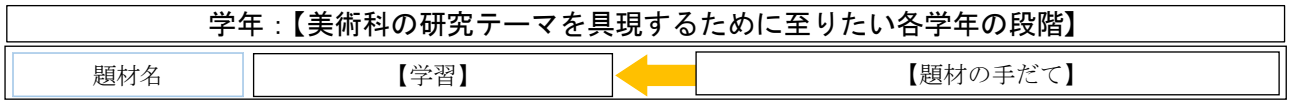


図２　　主題を基に、発想し構想する力を高めるための３年間の構想（の一部）

Ⅲ　題材の指導計画

１　題材名・学年　「木組み～組んだ形から感じたことを表す～」・１年

２　題材の目標　　※【　】内は、学習指導要領との関連を指している

（1）知識及び技能【Ａ表現(2)・〔共通事項〕】

形や色彩が感情にもたらす効果や造形的な特徴を基に、感じ取ったものを全体のイメージで捉えることを理解し、木の組み方などを意図に応じて工夫して表す。

（2）思考力、判断力、表現力等【Ａ表現(1)ア・Ｂ鑑賞(1)ア(ｱ)】

木を組みながら感じ取ったものを基に主題を生み出し、全体と木を組んだ部分との関係などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練るとともに、造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げる。

(3) 学びに向かう力、人間性等

美術の創造活動の喜びを味わい、楽しく木を組みながら感じ取ったものを基に表現したり鑑賞したりする学習活動に取り組もうとする。

3 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知 形や色彩が感情にもたらす効果や造形的な特徴などを基に、感じ取ったものを全体のイメージで捉えることを理解している。 技 木の組み方などを身に付けて意図に応じて工夫して表している。	思① 木を組みながら感じ取ったものを基に主題を生み出し、全体と木を組んだ部分との関係などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。 思② 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げている。	態表 美術の創造活動の喜びを味わい楽しく木を組みながら感じ取ったものを基に構想を練ったり、意図に応じて工夫して表したりする表現の学習活動に取り組もうとしている。 態鑑 美術の創造活動の喜びを味わい楽しく造形的によさや美しさを感じ取り、作者の表現の意図と工夫などについて考えるなどの見方や感じ方を広げる鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

4 美術科として、全校研究テーマに迫るための仮説

(1) 重点１に関わる仮説

・材料体験を行う中で、「コンセプトシート」に整理した「感じたこと」、「見立て」、「形の特徴」を相互に関連させて考えたことを基に、主題と表し方を考える展開を位置付ける。このようにすることで、「造形的な見方・考え方」を働かせ、木を組んだ形から主題を生み出し、木の組み方や着彩の仕方を構想することができる。(題材)

・「感じたこと」、「見立て」、「形の特徴」を相互に関連させて考えたことを基に、木を組みながら、主題と表し方を見返す活動を位置付ける。このようにすることで、主題とその表し方を深めたり、捉え直したりすることができる。(本時)

(2) 重点２に関わる仮説

・題材の終末、抽象的な彫刻作品を鑑賞して、主題とその表し方を考えた後、本題材の制作過程を通して、今後の学習や生活で生かせそうなことを考える場を位置付ける。このようにすることで、主題と表し方を捉え直しながら表現したり、鑑賞したりするよさを実感するなど、学んだことの意味や価値を自覚することができる。

5 題材に寄せた教材化

ア 木組みを題材として扱う価値

本題材の「木組み」では、既定の長さや形の木の組み合わせ方を考えながら、主題を立体的に表していく。生徒は、10 ㎜×10 ㎜×100 ㎜の木の角材の棒を、接着剤を用いて組み合わせる方法で表現する（**図３**）。題材展開における材料体験では、木を高く組んだり、複雑な組み方をしたりした時に崩れてしまうため、仮の接着用として着脱可能な練りゴムを用いる。素材となる木は、長さや形が規定であるため、木の長さや角、厚みがつくりたい形に制限を与え、粘土でつくり出すような滑らかな曲線や細密な形を表現すること、さらには具体物から視覚的に捉えた形をそのまま表現することには難しさがある。しかし、この素材と練りゴムを用いることで、生徒は、容易に木を組み合わせたり、崩したりする試行錯誤を繰り返すことができる。その中で生徒は、同じ形の木を組み合わせることで生まれる連続性や偶然性などを基に、主題を生み出し、さらに、木を組む特性を生かしながら、形を強調したり、単純化したりするなどして表すことで、発想や構想が広がったり深まったりしやすくなると考えた。

図３　木組みの様子

イ 主題や表し方を捉え直していくための「コンセプトシート」を用いる意図

本題材では、材料体験及び発想や構想をする際に、主題や表し方を考える場面で「コンセプトシート」（**図４**）を用いるが、その意図は次の三点である。

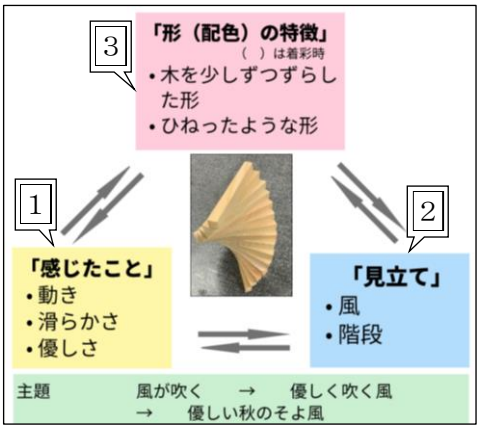


図４　「コンセプトシート」（例）

一点目は、「造形的な見方・考え方」を働かせるために有効であると考えるからである。中学校学習指導要領（平成 29 年度告示）解説美術編第２章第１節１（1）では、「造形的な見方・考え方」を、「感性や、想像力を働かせ、対象や事象を造形的な視点で捉え、自分としての意味や価値をつくりだすこと」としている。そこで、対象となるものを見たり触れたりして生徒が感じ取ったことを可視化するために、「コンセプトシート」を用いる。そこでは、対象を中心に据え、「感じたこと」（「感性」）（**図４**1）、「見立て」（「想像力」）（**図４**2）、「形（配色）の特徴」（「造形的な視点」）（**図４**3）の視点で、自らの考えを整理することができるようにする。このような「コンセプトシート」を用いることで、生徒は、対象と関わり、自分としての意味や価値をつくりだし、自ら「造形的な見方・考え方」を働かせることができるのではないかと考えた。

二点目は、主題の捉え直しができると考えるからである。主題とは、最初から明確に変わらずにある訳ではなく、材料体験において表したいことが加わったり、発想や構想、表現する中で明確になっていったりするものであり、捉え直すことが必要となる。生徒は、材料体験を行う中で主題を考え始め、発想し構想する場面で材料や試行錯誤した形を見つめたり触れたりして、そこで感じ取ったことを「コンセプトシート」に書き出していくことで主題を捉え直すと考える。例えば、材料体験で木をずらしながら組んだ生徒は、「風が吹く」を主題として生み出す。その後、「コンセプトシート」に、「感じたこと」として、動きや滑らかさ（**図４**1）、「見立て」として、風や階段（**図４**2）、「形の特徴」として、ひねったような形（**図４**3）、といった内容を書き出していく。そこで、教師が互いの「コンセプトシート」を共有し合う場を設けることで、生徒は、自分の考えと友の考えの違いを知ったり、友の助言を聞いたりして、主題を「優しい風」などと捉え直していくだろう。さらに木を組みながら「コンセプトシート」を振り返り、考えたことを書き足したり、整理したりしていく。すると、「ずらし方を変えるとなめらかな感じが出てきたから『優しい秋のそよ風』を表したい。」などと再度主題を捉え直していくことも予想される。なお、「感じたこと」、「見立て」、「形の特徴」に順序性はなく、「形の特徴」から何かを「感じる」生徒もいれば、組んだ形を何かに「見立て」、それを「形の特徴」と関連付ける生徒もいると考える。

三点目は、木の組み方や着彩を考える場面においても、「コンセプトシート」を用いることで、表し方や着彩の仕方も捉え直していくことができると考えるからである。生徒は、「コンセプトシート」に整理したことを基に、「なめらかさは、少しずつずらした形から感じる。主題の『優しい秋のそよ風』は、涼しい風が流れる感じにしたいから、ずらし方を考えて組んでみよう。」などと、主題を表すために、どのような形や組み方を考えていけばよいのかを構想していくだろう。これは、着彩の場面でも同様である。

以上の三点の意図から、本題材では「コンセプトシート」を用い、主題と表し方を考える学習を構想する。

なお、本題材では、導入場面での作品の鑑賞においても、「コンセプトシート」を用いる。それは、彫刻家が表現の過程で考えたことを生徒が想像しながら鑑賞を行うことで、自らの抽象的な表現の活動への意欲や見通しをもつことができると考えるからである。

(1)　材料体験を行う中で、「コンセプトシート」に整理した「感じたこと」、「見立て」、「形の特徴」を相互に関連させて考えたことを基に、主題と表し方を考える展開を位置付ける

第１時、教師は、作品名は伝えずに、コンスタンティン・ブランクーシの彫刻作品「空間の鳥」（**図５**1）を提示する。この作品は、鳥をモチーフとしているが、その形を極度に単純化した形で、表面を磨き上げて凹凸を極限までなくしているのが特徴であり、形としては抽象的な表し方をしている。本題材における抽象的な表し方の考え方にふれるために、生徒は、本作品を鑑賞する。生徒は、形の特徴として、「曲線的で、上に向かって反っている。」と考えたり、何の形を表した作品なのか疑問を感じたりするだろう。そこで教師は、「コンセプトシート」を紹介し、作品の「感じたこと」、「見立て」、「形の特徴」を整理し、それぞれを相互に関わらせ、作品の主題とその表し方を考えるように促す。生徒は、なめらかな曲線や真ん中を膨らませている表し方から、作品の主題を「上昇する羽の美しさ」などと自分なりに捉えていくだろう。

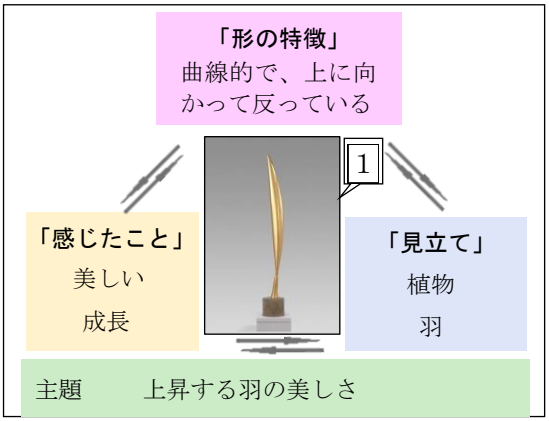


図５　「コンセプトシート」　第１時（例）

第２時、教師は、木を組んでつくった作品（**図６**）を紹介し、どのような主題と表し方で表現したと思うかを尋ね、生徒の考えを全体で共有する。そして、木を組むことで主題を表していくことを確認し、形をつくり試す材料体験を行う場を設ける。生徒は、木を組んだり、重ねたり、束をつくったりしながら様々な形をつくるだろう。そして教師は、生徒が組んだ形を、互いに鑑賞し合う場を設ける。このようにすることで、個人的な感じ方や考え方にも友と共通する感じ方や考え方があることや、似た形でも異なる感じ方や考え方があることを理解することにつながると考える。生徒は、自分では思いつかなかった形に気付き、素材への興味・関心を高め、形から想像したことや感じたことについて振り返るだろう。

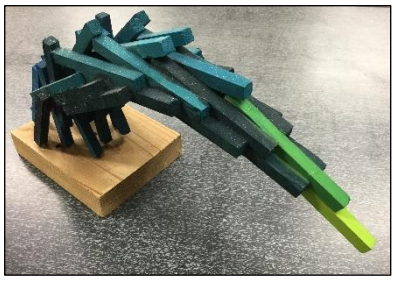


図６　紹介する教師の作品　第２時

第３～４時、教師は、前時の木組みの形（**美術１１ページ「Ⅳ資料」参照**）から何かを想像したり、感じていたりする生徒の振り返りを紹介し、題材の学習問題「感じ取ったことや考えたことから主題を生み出し、木組みで表そう。」を設定し、主題を考えるように促す。生徒は、材料体験でつくった木をずらす方法で、「風が吹く」を主題として表したいと考えたり、それをどのような組み方で表していけばよいのか疑問をもったりするだろう。そこで教師は、「コンセプトシート」に考えをまとめていくことを提案する。生徒は、魅力を感じた木組みの「感じたこと」、「見立て」、「形の特徴」について考えていく中で、角度を変えて木組みの形を見たり、友と相談したりして、**図４**のように「優しさ」、「風」、「木を少しずつずらした形」などを「コンセプトシート」に整理する。生徒は、それらを関連させて考え、主題を「優しく吹く風」へと捉え直していくだろう。そして、教師は、生み出した主題を基に、どのように表していったらよいのかを考える場を設け、生徒は主題を表すために木を組み始めていく。

第５時（本時）、教師は、捉え直した主題や考えた表し方に関する振り返りを紹介し、学習問題「主題をどのような木の組み方や形で表していけばよいだろうか」を設定する。そして、教師は、「優しさ」、「風」、「木を少しずつずらした形」を関連させて、ずらす幅を変えて表そうとしている生徒を取り上げる。そのような生徒の反応から、学習課題「『感じたこと』、『見立て』、『形の特徴』を相互に関連させて考えたことを基に、木を組

みながら、主題と表し方を見返そう。」を据えて、制作に入ることを確認する。生徒は、「コンセプトシート」にまとめた内容を関連させて考えることで、「縦と横にずらしてひねったような形にすることで風が吹いている感じに近付いた」などと、主題を表していくだろう。また、生徒は、「風を感じただけではなく、組んだ形が丸くなっていくように見えるから、落ち葉が回転して飛んでいく秋の風を感じる。」といった自分とは異なる友の感じ方にも触れて表していくだろう。そのような制作の中で、教師は、木を組みながら主題とその表し方について見返すように促す。生徒は、「木を縦と横の両方にずらしながら組んでいくと全体としてなめらかな感じが出そうだから『優しい秋のそよ風』を表現しよう。」と、さらに主題を捉え直しながら表していくだろう。また、「幅が狭い組み方から広い組み方に段々としていくことでさらに風が弱くなってくるように感じる。」などと、表し方の捉え直しも行っていくだろう。

第６～８時、教師は、組み方を変化させて、さらに主題が表れるようにして木を組んでいる友の作品を紹介する。生徒は、「同じように木をずらす組み方でも、横にだけずらすとさわやかな風を感じるが、縦と横の両方からずらした形からはひねった風を感じる。」などと、さらに表し方を深めて、組み方が同じでも様々に形を試行錯誤して主題を表していくだろう。

第９～11 時、教師は、組んだ木に着彩する際、撮影した写真上に色鉛筆などで描き試し、そこから主題が表れる配色を選択するように促す。着彩する際にも、必要な生徒には、「コンセプトシート」（**図７**）を活用するように促す。生徒は「さわやかな風は秋の風だ。秋は、落ち葉のオレンジ色や黄色の配色だと思う。優しい感じが出るように、透明描法で淡く着彩しよう。」などと、配色を考えていく。このようにすることで、自らの木を組んだ形の着彩の構想を練って主題を表していくだろう。

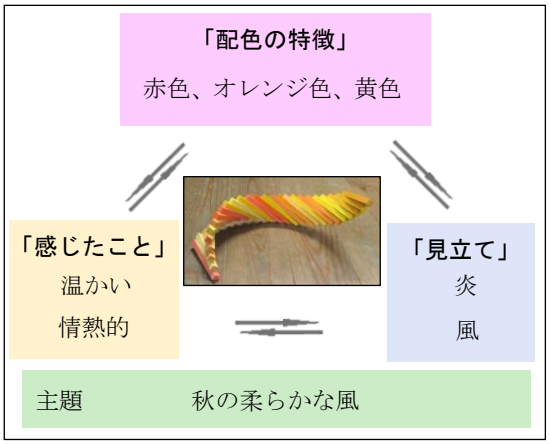


図７　「コンセプトシート」第９時　例

(2)　抽象的な彫刻作品を鑑賞して、主題とその表し方を考えた後、本題材の制作過程を通して、今後の学習や生活で生かせそうなことを振り返る場を位置付ける

図８　ブランクーシ作「雄鶏」

題材の終末、教師は、制作過程を振り返る場を設ける。生徒は、「コンセプトシート」を見返し、「感じたこと」や「形の特徴」を相互に関連付けることで主題を生み出すことができたり、主題を基に発想や構想ができたりしたこと、さらには発想や構想をしたことで表現が深まったことなどを自覚するだろう。その後、教師は、第１時で鑑賞したブランクーシの別の彫刻作品「雄鶏」（**図８**）を鑑賞して、主題とその表し方を考える場を位置付ける。主題を基に、発想し構想してきた生徒は、同じ彫刻家の似たような形の作品を鑑賞することで、第１時の鑑賞よりも、考えを広げ、深められるようになっていることに気付くだろう。また、教師は、「本題材をこれからの学習や生活にどのように生かすことができそうか」と生徒に問う。生徒は、「この題材を通して、形から様々なことを感じることができるようになってきた。単に木を組んだ形だけれど、それが風に見えたり、水に見えたりして、そのような見方で日々生活していくと、楽しくなると思う。」などと振り返るだろう。このような場を位置付けることで、生徒は、主題と表し方を捉え直しながら表現したり、鑑賞したりするよさや楽しさを実感するなど、学んだことの意味や価値を自覚することができるのではないかと考えた。

６ 題材展開 木を組んだ形から主題を生み出し、木の組み方や着彩の仕方を構想する学習

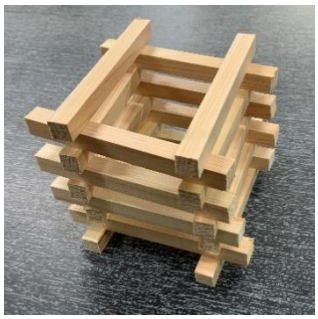
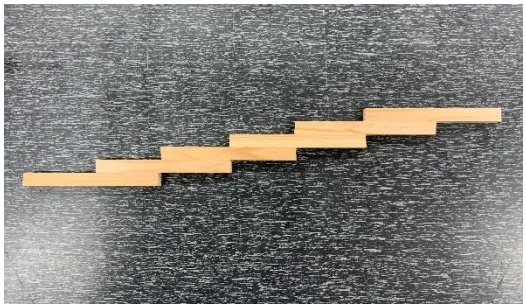
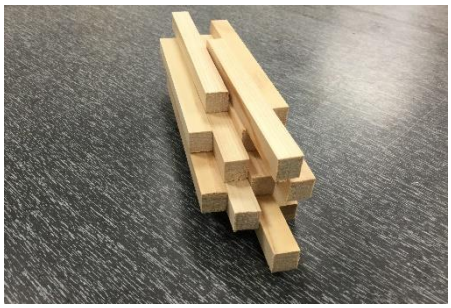
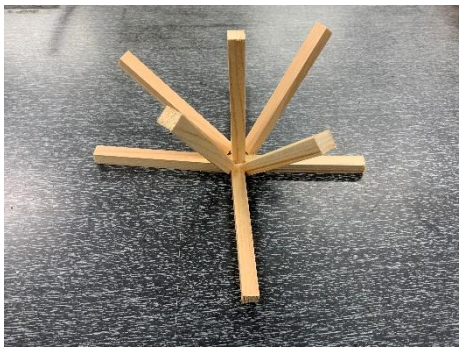
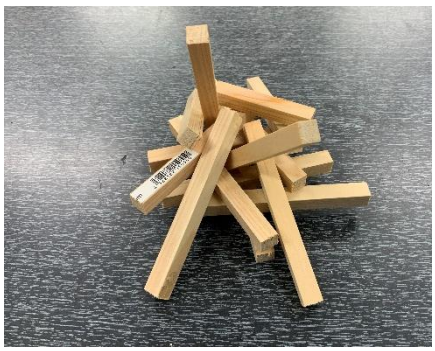
全12時間扱い本時は第５時

段階	◆学習 教師の指導・支援	予想される生徒の反応	評価の観点	時間
導入	◆抽象的な表し方をした彫刻作品の主題やその表し方を考える。 ・コンスタンティン・ブランクーシの彫刻作品を提示し、特徴を問う。 ・アのような反応から、何を表した作品なのかを友と話し合うように促す。 ・「感じたこと」、「見立て」、「形の特徴」を「コンセプトシート」に整理し、主題を考えるように促す。 ・抽象的な表し方の特徴について確認する。	ア　細長い形をしている。表面に光沢があって、金属のような素材でできている。何を表した作品なのだろうか。 イ　羽の形に見えたけれど、友は上昇していく水に見えると言っていた。確かに、上に伸びていくように見える。 ウ　形が上に向かって反っていたり、真ん中が膨らんでいたりして、先が細いことなどを関連させて考えていくと、この作品の主題は「上昇する羽の美しさ」なのではないか。 エ　抽象的な表現に興味が湧いた。この題材を通して、どのような材料でどのような作品をつくっていくのか、見通しをもっておきたい。	知 （観察・ワークシート）	1
展開	◆木を組んだ形から生み出した主題を基に、その組み方を構想する。 ・エのような反応から、教師の参考作品を提示し、主題やその表し方を考える場を設ける。 ・オのような反応から、木の角材の棒を提示して、組んでみるように促す。 ・カのような反応から、どのような形ができたのかをグループで鑑賞し合う場を設ける。 ・キのような反応を取り上げ、全体に紹介する。 ・つくった形を撮影し、ロイロノートで感じたことなどを共有する場を設ける。 ・コのような反応から、**題材の学習問題「感じ取ったことや考えたことから主題を生み出し、木組みで表そう。」**を設定し、主題を考えるように促す。 ・「感じたこと」、「見立て」、「形の特徴」を「コンセプトシート」にまとめる場を設ける。	オ　不規則に木を組むことでダイナミックな波に感じる。組んだ木に着彩することでさらに波のダイナミックさが強調されている。早く木を組んでみたい。 カ　四角を組んで積むと高くなってタワーになる。他の人がどのような組み方をしているのか知りたい。 キ　私と同じでタワーのように木を高く積む組み方もあったし、太陽のように外に広がっていく組み方もあった。似た組み方もあれば、全く違う組み方もある。 ク　木をずらしていく組み方をした人の中に、風が吹いているように感じる美しい形があったので、やってみたい。 ケ　木のずらし方を変えると様々な風に見えそうだ。同じように木をずらす組み方をしている人は、どのようなことを感じながらそのような組み方をしているのか知りたい。 コ　川の形に見えた人は、木のずれと水の流れのイメージが重なったのだろうか。私も、木を組んで表したいと思ったことを、どのような形で表していけばよいのか考えたい。 サ　「木をずらした形が水の流れのように見える」という友の意見を参考にしながら、材料体験でつくった木をずらす組み方で「風が吹く」を主題として表したい。ただ、流れる風はどのようなものなのかイメージしづらいし、どのような形ならばイメージした風を表せるのだろうか。 シ　木を少しずつずらしているところから優しさを感じる。主題は、「優しく吹く風」に変更しよう。「優しく吹く風」を表せるような木の組み方や形を考えながら、実際に木を組んで表していきたい。	思① （観察・ワークシート）	2～4
	◆主題とその表し方を深めたり、捉え直したりする。 ・シのような反応を取り上げ、**学習問題「主題をどのような木の組み方や形で表していけばよいだろうか」**を設定する。	ス　主題が「優しく吹く風」だから木を少しずつずらす組み方で表せるだろうか。「コンセプトシート」を参考にしながら表し方を考えてみよう。ずらす幅によって優しさを感じたから、幅を狭くすることで控えめで優しい感じになりそうだ。 セ　私は、「木を少しずつずらした形」から「優しさ」を感じた。ずらす幅を変えてみると、感じ方も変わってくるだろうか。そうすると表したいことも、以前とは少し変わってきそうだ。	5分		

展開	・セのような反応から、**学習課題「『感じたこと』、『見立て』、『形の特徴』を相互に関連させて考えたことを基に、木を組みながら、主題と表し方を見返そう。」**を据え、制作していく場を位置付ける。 ・本時の学習を通して考えたことを振り返り、次時に主題をどのように表していきたいのかの見通しをもつように促す。	ソ　幅を広くずらした形の平坦さが優しさとつながるかもしれない。 タ　どんどん長くなって全体の形が単調になる。友の組み方のように、横だけじゃなくて縦にもずらすことで全体の形に動きが生まれてよいのではないだろうか。 チ　ひねったような形になるが、その方が風が吹いている時のイメージに近い気がする。「優しく吹く風」が表せてきているか、友に聞いてみたい。 ツ　ずらし方を変えて、縦と横の両方にした。それについて友は、そよ風が吹いている感じがすると言っていた。私は、友が感じたことも参考に、主題を「優しい秋のそよ風」にしたい。 テ　木をずらすことで風を感じたけれども、ずらし方を少し変えるだけで、そこから感じる風も変わってくることが分かった。さらに主題を表せるように組み方を追求していこう。	35分 10分	技 思① 態 表（観察・ワークシート・作品）	5～8（本時は第5時　太枠部分）
	・テのように、より主題が表れるように組み方を考えている生徒を全体に紹介する。 ・トのように、さらに主題が表れるように木を組んでいく場を設ける。	ト　ひねった形を伸ばしていこうと思う。規則正しいと機械的だから、自然の風のようにずらす幅を変化させながら組んでいこう。 ナ　友にどこまで長くすればよいか聞くと、風の強さによって考えたらどうかと言われた。秋のそよ風は弱く吹くイメージがあるから、もう少し短めにしよう。 ニ　木を組んで「優しい秋のそよ風」を表すことができた。色合いはどのようにしたらよいのだろうか。			
	◆主題を基に、配色を構想し、着彩して表す。				
	・ニのような反応から、提示した配色からどのようなことを感じたりどのような印象を受けたりするか問う。 ・必要に応じて、「感じたこと」、「見立て」、「配色の特徴」を「コンセプトシート」にまとめる場を設ける。 ・ネのような反応から、主題を表す配色を考え、着彩していくように促す。	ヌ　赤色とオレンジ色の配色は、情熱的な印象がする。でも、友が疑問に思っていたように、赤系統の色に対して情熱的な印象がするはなぜだろう。 ネ　「コンセプトシート」に整理したことで発想がつながってきた。赤色とオレンジ色は炎と同じ配色で、炎だから温かく感じるし、温かいから情熱的な印象を抱くのだろう。「優しい秋のそよ風」をどのような配色で表そうか。 ノ　秋と言えば落ち葉だ。落ち葉は赤色と黄色の配色だから、その色を使おう。優しさは、絵具の水分量を調整して、透明描法で淡く塗って表そう。 ハ　着彩によって、主題を表すことができた。友は、どのような主題をどのような表し方で表したのだろう。			9～11
終末	◆主題と表し方を捉え直しながら作品を制作したり、鑑賞したりするよさを実感する。			知 思② 態 鑑（観察・ワークシート）	12
	・ハのような反応から、互いの作品を鑑賞し合う場を設ける。 ・抽象的な彫刻作品を鑑賞して主題とその表し方を考える場を設ける。 ・自分の制作過程を振り返って、今後の学習や生活で生かせそうなことを振り返るように促す。	ヒ　友は、ランダムに木を組んでいるように見える。でも全体を見ると渦を巻いている形だ。色彩は鮮やかな色合いでカラフルだから激しさを感じる作品である。気持ちが高揚している心の内を表したのだろうか。 フ　主題は「空に羽ばたきたい片足の鳥」だと思う。土台につながっているのは１本の脚、ギザギザした形は階段を表していて、鳥の形に階段をつけることで飛びたいけど飛べない様子を表していると考えた。前よりも、形から想像したり、感じ取ったりできるようになってきて楽しい。 ヘ　この題材を通して、形から様々なことを感じることができるようになってきた。単に木を組んだ形でも、それが風に見えたり、水の流れに見えたりして、そのような見方で過ごしていくと、日々の生活が楽しくなると思う。			

Ⅳ 資料

○木の組み方の素材研究

 同じ形を上に積んだ組み方	 重ねて縦にずらした組み方
 同じ形をずらしながら上に積んだ組み方	 重ねて横にずらした組み方
 積んだ組み方	 重ねて縦と横にずらした組み方
 間に挟んだ組み方	 束をつくった組み方
 点でつないだ組み方	 ランダムな組み方